

2004年5月20日発行

北海道情報大学 学内報

発行：北海道情報大学

〒069-8585

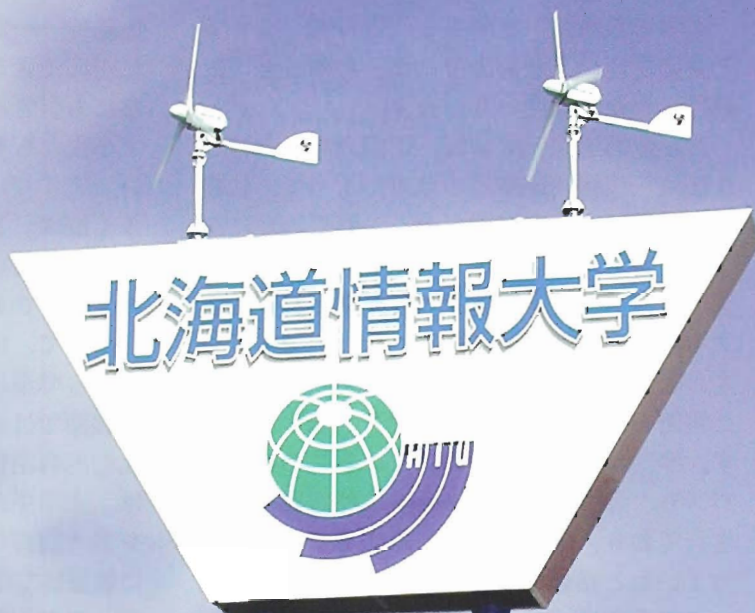
江別市西野幌59-2

TEL 011-385-4411

FAX 011-384-0134



ななかまど Vol.30



目次

新入生を迎えて 久野学長	2
新入生宿泊研修を終えて 坂上学生部長	3
学位記授与式・入学式	4
進展する国際交流活動	5
北海道ふるさとCM大賞 上原ゼミ 坂上健吾	6
情報処理学会全国大会で学生奨励賞	7
洋上研修船に参加して 教務課・角谷係長	8~9
学生サポートセンターの1年 中島事務室長	10
同窓会臨時総会・10周年記念式典	11
人事異動・主要行事・広報活動	12



写真：サイン塔



新入生を迎えて

学 長 くの みつろう
久野 光朗

本学の教職員・在学生を代表して、まず新入生諸君に「入学おめでとう」と申し上げ、諸君を心から歓迎いたします。

わが北海道情報大学は、平成元年、今は亡き松尾三郎初代理事長の尽力によって、札幌市の東に位置する江別市のここ野幌の地に誕生しました。この地は北海道最長の河川、石狩川の河口域近くにあり、野幌原生林に隣接する非常に自然環境に恵まれた土地であります。先住民の遺跡もあり、明治初年には開拓と防衛の任に当たった屯田兵も入植しています。今、われわれが生活しているこのキャンパスも、大学が設置される前は酪農業に利用されており、牛の飼料を貯蔵するサイロが建っていたと聞いています。

さて本学は、設立当初、経営情報学部のみからなる単科大学でありましたが、平成6年、北海道で最初の通信教育部が設置され、ついで平成8年には大学院修士課程が設置され、さらに平成13年、情報メディア学部が設置されると同時に、情報化時代の教育の要請に応じて「情報」に関する教職課程が設置され、ここに大学院を有する複数学部からなる大学へと成長してきました。今年は創立後ちょうど満15年になりますが、新設の情報メディア学部も新入生を迎えて1年次生から4年次生まで揃い、完成年度を迎えることができました。

初代理事長の建学の理念は、「国際化」と「情報化」に対応できる人材の養成ということでありましたが、われわれ教職員は、その精神を受け継いで着々と成果を挙げてまいりました。「国際化」に関しては、アメリカ合衆国のカリフォルニア大学サンタクルーズ校、中国の南京大学と瀋陽師範大学という3大学と姉妹提携を結んでおり、教職員・学生の相互交流を行っています。また、「情報化」に関しては、パインネットという本学独自の通信技術を保有しているほか、複数の大学で国際的にも共同利用が可能な通信衛星を保有し、研究と教育に活用しています。

本学に入学した諸君は、いま言及した建学

の精神——すなわち「国際化」と「情報化」に対応できる人材になり、この精神を後輩たちにも引き継いでいってもらいたいが、ここで小生からも若干、要望を述べることにしたい。まず、ひとこと言え、**「よく学び、よく遊ぶ」**ということをバランスよく実践してもらいたい。資格取得・就職目的の一辺倒のガリ勉型では、豊かな人格形成は望めません。さりとして、学生本来の勉学に身を入れず、もっぱら享楽にふけることは、言語道断です。金銭面では多少苦しい思いをしたとしても、比較的自由に使える時間に恵まれていることは、大学生の一大特権であります。この特権を最大限有効に行使してください。一生懸命に勉強して充実感・達成感が得られなければ、遊んでも面白くないはずですし、その逆もまた、真理です。要するに、北の大地の四季の変化のように「メリハリ」をきかせた学生生活を送ってもらいたい。

さらに、もうひとつ要望しておきましょう。それは、良き師に出会って美しい師弟愛を生み出すとともに、諸君の仲間同士から真の友情を育ててもらいたい。学生時代の友情は利害を伴わないだけに一生継続することが多いのです。ある旧制高校の寮歌の一節に、「友の憂いに我は泣き、我が喜びに友は舞う」というのがあります。ときによって醜い利害が交錯する社会人になってからでは望めない友情です。私が敬愛する19世紀のイギリスの詩人・美術工芸家で社会運動にも携わったW.モリス(1834-1896)は『ジョン・ボールの夢』(1888)という本の中で言っています。「友情は天国であり、その欠如は地獄である。友情は生命でありその欠如は死である。」私の大好きな言葉のひとつですが、諸君も良い友を見つけ、一生涯続く友情を育んでください。

最後に、新入生諸君の大学生活が実り多いものであり、この北海道情報大学で学んでよかったと言って、立派に社会へ巣立っていくことができるよう、祈ります。われわれ教職員・在学生一同は、保護者の皆さんともども、それが実現できるよう努力いたす所存です。

平成16年度新入生宿泊研修を終えて

学生部長 坂上 修二



平成16年4月8日(木)、9日(金)の2日間にかけて、経営情報学部201名、情報メディア学部182名(1名病欠)、合計383名の新入生宿泊研修が行われました。参加頂いた教職員26名と学生実行委員8名を合わせて合計417名が一度にホテルに泊まるという大規模なものでしたが、これまでの経験から効率的に実施することができたように思います。

今年度の宿泊研修では前日の学内ガイダンスとの内容の重複を避けたこと、新規の試みを導入しつつ簡素化を図ったこと、時間的な余裕を持たせたことが従来とは異なった点であると思います。

それでは宿泊研修の状況をざっと述べたいと思います。宿泊研修は8日午前10時半からの全体研修(松尾記念館講堂)をもって開始となりました。昨年までは1時間半にわたって7つの項目について話がありましたが、今年は学生部長による「合宿研修の意義と学生生活上の諸注意」だけに絞り、時間も15分と大幅に短縮しました。これは上で述べたように、学内ガイダンスとの重複を避けたことによるものです。

全体研修終了後、同講堂で学生実行委員会の主催によるクラブ紹介があり、新入生はリラックスした一時を過ごしたことと思います。口頭による勧誘だけでなく、クラブ紹介パンフレットも配付されておりましたので、かなり効果が上がったのではないのでしょうか。

13時から学生実行委員の協力を得て新入生を16台のバスに誘導し、定山溪温泉のホテルミリオーネに向けて出発となりました。例年ですと出発前の点呼では必ず行方不明の学生が2、3名いるのですが、今年はそれが全くなく、驚くとともに幸先よいことと思えました。バスによっては学生実行委員がかなり長い間お話をしてくれたようです。

15時前にホテルに到着、この後は夕食まで自由時間となっておりますが、この時間帯を利用して学生実行委員8名による『よろず相談』を初めて実施しました。学生実行委員が

2部屋に分かれて待機し、新入生に自由に来てもらって様々な質問や相談に答えるものです。当初、あまり相談に来ないのではないかと心配しておりましたが、すぐに多くの新入生が訪ねてきて大賑わいでした。相談に来た学生の数は100名以上にもなったと聞いております。質問の大部分は履修関係とのことで、講義概要と時間割を見ながら先輩は熱心に答えておりました。単位の意味もなかなか理解しにくかったようです。やはり先輩には質問しやすいようで、この企画は大変良かったと思います。来年は参加する実行委員をもう少し多くした方が良いでしょう。

18時にいよいよ楽しみの夕食となりましたが、今年は昨年のような大混雑もなく順調に食事をとることができ、また内容も少し良かったようで、新入生の皆さんには満足して頂けたと思います。食事後も談笑している姿も見られました。

夜8時からのクラス別ミーティングでは生活上、あるいは勉学上の諸注意や自己紹介などが行われましたが、今年は初めて学生実行委員がミーティングに参加し、説明をしたり質問に答えるなどしてミーティングの補助を行いました。新入生にとっては分かりやすく親しみのあるミーティングとなったのではないのでしょうか。

翌朝9時からの2度目のクラス別ミーティングをもって宿泊研修の全メニューは終了し、その後、大学に向けて出発、昼過ぎに到着ということで無事宿泊研修を終了しました。

宿泊研修が終了してから早1カ月以上が過ぎ、皆さんの大学生活はかなり軌道に乗っていると思いますが、目標を持って学業とスポーツ、趣味やアルバイトなどのバランスを取りながら楽しく4年間の大学生活を過ごされることを心より願っております。

最後になりましたが、400人を超える大人数の合宿研修を実施するに当たり、ご協力頂きました関係各位の皆様には深く感謝申し上げます。

学位記授与式

3月12日(金)10:00から、本学松尾記念館講堂にて、平成15年度北海道情報大学学位記授与式が行われました。

式は、厳粛なうちにも和やかな雰囲気の中、行われました。その後、記念撮影、体育館での卒業祝賀会と続き、学位記を手にした学生たちは、大学との別れを惜しんでいました。

なお、この日は、成績優秀者の表彰も、併せて行われました。

●卒業生

経営情報学部

経営学科 83名

情報学科 112名

経営情報学部・通信教育部

経営学科) 正科生 A 41名

情報学科) 正科生 B 334名

●修了生

経営情報学研究科 9名



卒業生・修了生答辞



西埜恵里子さん

平成15年度 学生表彰者

●通学課程

・成績優秀者
経営学科 西埜恵里子
情報学科 上谷内 裕

●通信教育課程

・成績優秀者
情報学科 丸山 智久
・努力賞
情報学科 石原 英里
情報学科 永津 弘子
情報学科 早田 篤史
情報学科 前久保和喜
情報学科 三好佐世子

※学位授与式と入学式は通学課程と通信教育課程、更に大学院も合同で行われた為、会場にはテレビカメラ3台が設置され、全国の教育センターにその様子が中継されました。

北海道情報大学 入学式



祝辞を述べる松尾理事長

平成16年度北海道情報大学入学式が、4月6日(火)10:00から、本学松尾記念館講堂で行われました。

式は開会の辞に始まり、学長告辞、理事長祝辞、祝辞・祝電披露と続いたあと、学長と各学部長による教員紹介が行われました。つづいて入学生代表の言葉(宣誓)が読み上げられ、閉式の辞で終了しました。

少々緊張した面持ちで式に臨む新入学生を、保護者の方々も、本学の教室に設置されたモニターで見守るようにご覧になっていました。



入学式

国際交流委員会だより

－進展する国際交流活動－

本学は海外の3大学（中国の南京大学、瀋陽師範大学およびアメリカのカリフォルニア大学サンタクルーズ校）と学術交流協定を締結しております。これまでこれらの機関との交流を中心に活動を続けてきましたが、本年はさらに新たな活動が展開されることとなりました。

1. 留学生の入学

昨年度、すでに2人の中国人留学生が大学院経営情報学研究科に入学し、また情報学部3年次に1名の中国人留学生が編入学しております。今年度はさらに経営情報学部2名、情報メディア学部1名の中国および台湾出身の新1年生が加わりました。これらの学生への教育指導にはきめ細かな対応が必要であり、その一方で日本人学生にとっては生きた異文化交流の

機会としての刺激が期待されております。

なお、平成19年からは情報メディア学部3年次に南京大学から毎年20名の学生を3年次に迎え入れる計画が現在進行中であります。

2. 夏期短期海外研修

南京大学および米国カリフォルニア大学サンタクルーズ校における夏期短期研修は、昨年は中国その他の地域における新型コロナウイルスの発生などにより実施を見送りましたが、本年は再開準備を開始しております。参加学生に対しては各大学に納入する授業料に対する本学の補助に加え、昨今の経済情勢を踏まえた本学独自の無利子ローンも設定し、経費の点からも参加しやすいものにしてあります。なお、この研修は教養科目「海外事情」2単位として認定されます。

3. 交換留学プログラム

昨年度より米国カリフォルニア大学サンタクルーズ校との間で、学生交換プログラムを展開しております。単位互換制度の下、学生は1年間の留学で取得した単位を本学の単位に振り替えることができ、4年間の在籍で卒業できる可能性があります。年間若干名に限られておりますが、留学中は本学の授業料免除などの援助もあり、昨年秋からの第1回留学生としては現在2名の女子学生が出かけております。

4. 客員教授の招聘

来る7月に、米国カリフォルニア大学サンタクルーズ校からJack D. Callon 講師を本学に客員教授として招聘することが決定しました。氏は長らくIBMに勤務した経験があり、IT技術と経営の関係を同校で教育しており、主として本学大学院の当該教育プログラムと研究に資することがおおいに期待されます。滞在は1カ月間の予定です。



UCSCカーン工学部長(左)と本学事務局長(右)が招聘教授の取り決め文書に署名



Jack D. Callon教授

「第3回 北海道ふるさとCM大賞」 NHK札幌放送局長賞受賞!

『4000kmの旅』
～本学・情報メディア学部・映像サークル～

情報メディア学部4年・上原ゼミ

坂上 健吾

左から小稲さん、増子さん、坂上君、久野学長、上原先生、亀井さん、志村君

「ふるさとCM大賞」に北海道情報大学から初めて応募してNHK札幌放送局長賞を受賞しました。これは、北海道に住む私たち一人ひとりがそのふるさとの魅力を映像化し、広く紹介しあうことを目的として、21世紀が埋もれていた北海道の可能性が現実化する「北海道の世紀」になるため、私たちの『ふるさと』を見つめ直し、多くの人々に伝えるメッセージ「ふるさとCM」作品（1分以内の映像にまとめ）を発表するものです。

今年は北海道212市町村から、143本の作品が応募されその全作品の放送を終了し、その中から23本の全道審査会出場作品が選ばれました。そして3月20日(土)春分の日、「かでの2.7ホール」にて10本の入賞作品が会場講評審査の上、選出されました。

審査は広告評論家の天野祐吉氏を審査委員長に作家の谷村志穂さん、電通・室長の白井栄三氏、北海道総合企画部長の吉田洋一氏、北海道新聞・事業局次長の矢萩武美氏、NHK札幌放送局長・内村正教氏の6名で会場試写と講評による厳正な審査でした。

この模様は4月4日(日)午後4時30分～午後5時59分(NHK衛星第2テレビ)で全国放送になりました。

本番前に舞台リハーサルなどがあり、控え室に集まった6～70人の出演者たちは皆自信がありそうな表情をしていて緊張しました。中でも高校の放送局や函館、釧路のライバル大学もいて、負けたくないという気持ちになりました。

私たちは渡り鳥の生態にテーマを決め、自然部門に応募しました。企画会議、構成会議、そして取材など、全てが初めて経験することばかりで、

撮影の日、午前3時40分134研究室に集合と言われた時はびっくりしました。寒いことと、眠たい眼をこすりながら機材の準備をして40kmほど離れた美唄市・宮島沼に到着。更にびっくり、そこは一面の霧でした。何も見えませんでした。待つこと1時間…幻想的な、夢のような景観が現れました。初めての実写撮影、何をするか、狙いは何か、自分の役目、役どころは十分に決めてあったのですが…三脚に乗せたカメラは固定されているのに何故か画面が揺れていました。

撮影を終えて、先生の奥さんが作ってくれたおにぎりとおかずを食べて反省会を終えたのが11時半、学校に戻って午後の授業に出席しました…。

10月上旬、早朝に13人で出かけた宮島沼、みんなで自然と向き合った時間は、とても貴重な体験でした。本当に楽しかったです。来年度も4月から新しく3年になるゼミ生を迎え、より良い作品づくりに、情報大より全国に向けて、北海道の魅力を情報発信していきたいと考えています。



宮島沼附近での渡り鳥の撮影風景

トピックス

情報処理学会第66回全国大会において 「学生奨励賞」を受賞!

大学院生・三浦克宜君の研究発表で



2004年3月9日～11日に開催された情報処理学会第66回全国大会（会場：慶応大学湘南藤沢キャンパス）の学生セッションにおいて、大学院生三浦克宜君をトップオーサとする研究発表「注釈構造を用いた学習支援方法とそのツールについて」（○三浦克宜・齋藤一・齋藤健司・前田隆）が、このセッションの9件の発表の中から最優秀なものとして選ばれ、「学生奨励賞」を受賞しました。

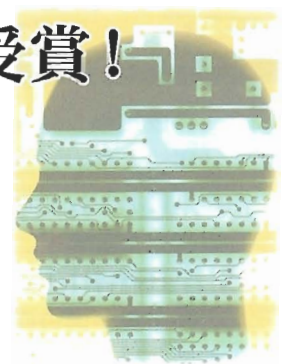
この「学生奨励賞」は、日本の大学における草創期からの情報処理教育リーダーであり、情報処理学会副会長も勤められた故高橋延匡先生の発案に基づき、全国大会での学生セッションの設置ならびに優秀な発表に対する賞として結実されたものです。

なお、本賞受賞者には、今回の立派な内容の研究発表を讃えるとともに、この賞を励みとして日本ばかりでなく世界に通用する高度なコンピュータ技術の向上に専念し、また情報処理学会を研究発表の場として大いに活躍することが期待されています。

また今回の受賞は、北海道情報大学学生表彰規程の第2条(2)「学術研究活動において特に顕著な業績を上げた」と認められる個人または団体に該当することが認められ、3月24日に学長から表彰されました。

追記：さらに、情報処理学会北海道支部の評議会において、2003年10月に開催された電気関係学会北海道支部連合大会における研究発表「電子教

材に対する注釈付けと学習支援機能について」（○三浦克宜・齋藤一・齋藤健司・前田隆）が「平成15年度北海道支部奨励賞」に正式決定されたとの連絡が入り、重ねて本学としての名誉を高めることとなった。





乗船した「ふじ丸」(23,235トン、客船定員600人)

日本経済青年協議会 「洋上研修船」に参加して

教務課 係長 角谷 有規

平成16年2月5日(木)から2月13日(金)の9日間、社団法人日本経済青年協議会<略称;日経青>主催による「第35回日経青洋上研修船」に参加しましたのでご報告いたします。

「日経青洋上研修船」は、昭和47年に第1回が開催され、我が国の洋上研修としては最も古く実績があるものです。今回の上陸地研修(寄港地)は、諸事情により昨年までの「アジア」から「グアム」「サイパン」に変わりました。

研修参加者は、78名(昨年103名)で様々な業態・業種の方が参加していました。また、今回乗船した「ふじ丸」には、「日経青洋上研修」以外に「東芝関係の研修者約20名」と「カジュアルクルーズ参加者約40名」が乗船していて、各種イベントへの参加を通じて船内で交流することができました。

研修日程は、「横浜港(大さん橋)→洋上3日間→グアム滞在1日→サイパン滞在1日→洋上3日間→横浜港」という、今までに経験したことのない、長期にわたる船での研修でした。

研修目的は、「世界を考え、日本を見つめ、自分の役割をつかもう」を統一テーマとして、参加者全員が役割を分担し、自主運営を体験することにより、リーダーとしての資質向上をはかり、実務家・講師による講義、ディスカッション、プレゼンテーション、異業種交流等を通じて人間的成長と視野の拡大をはかるとともに、海外に渡航することによって、国際的視野を広め、相互理解と協調の精神を涵養することを目的としています。

1. 船内での研修

(1) 研修船の特徴

運営は15名程度を1つの班に編成し、その中に3つのグループをつくり、班には班長、グループにはグループ長を選出し、「たて割り」の研修を進める組織を形成。また、班員は「生活」「企画」「研修」「広報」の役割を分担し、各委員会を構成し、「よこ割り」の活動

を進める役割別組織を形成。こうした有機的な運営組織(マトリックス組織)により、毎日設定されたタイムテーブルに従って、お互いの役割を果たしながら自主運営するシステムが特徴となっています。



左から古橋廣之進名誉団長、筆者、屋上八郎講師

06:45	起床
07:15~7:30	朝のつどい
07:30~08:00	朝食
08:00~09:00	自由時間(自主運営活動)
09:00~12:00	研修
12:00~12:30	昼食
12:30~14:00	自由時間(自主運営活動)
14:00~17:00	研修
17:00~17:30	班別会議
17:30~18:00	自由時間(自主運営活動)
18:00~19:00	夕食
19:00~23:00	自主運営活動

(2) 個別研修テーマ

- ①問題解決能力の向上
- ②リーダーとしてのプレゼンテーション能力
- ③リーダーとしての役割の理解・開発
- ④心と体のケアとパワーアップ

(3) 研修エピソード

横浜港を出航してからすぐに黒潮の影響を受け、さらに黒潮をぬけても低気圧の影響を受け海が荒れ、船はまさにジェットコースター状態。手すりに掴まらないと歩けない、寝ていてもベットから落ちるなど、ものすごい状況下で、船の揺れに慣れているはずの「ふじ丸乗組員」でさえも船酔いによりダウンしたほどでした。この揺れはほぼ毎日続き、ひどいときには半数が「船酔い」で研修を欠席し、全研修の3分の1くらいしか研修に参加できない方もいたほどでした。事務局の方に聞いた話では、これほど船が揺れたのは過去に例がないとのことでした。



横浜出港の様子



アプガン岩からの風景



恋人岬からの風景



ラッセストーン公園にある旧日本軍の防空壕

2. 上陸地研修

オプションツアーとして大半の研修生が選択した「グアム島内終日視察」後、グアム空港から航空機に搭乗しサイパン島へ向かいホテルで宿泊、翌日「サイパン島終日視察(島内一周巡りと慰霊)」を選択しました。唯一、船酔いから開放された2日間でした。グアムでは非常に厳しい入出国審査となりましたが、サイパンはアメリカではないため非常にあっさりとしたものでした。

(1) 平成16年2月9日(月)

アメリカ合衆国準州グアム(グアム)

スペイン領、アメリカ領、日本領、アメリカ領と激変と言っても過言ではない変化を遂げたチャモロ人の力強さを感じた上陸地研修でした。

(2) 平成16年2月10日(火)

アメリカ合衆国自治領北マリアナ諸島サイパン(サイパン)

美しすぎるほどの景色の中で我々の先人達が自らの命を投げ捨てなくてはならない現状を思い浮かべると、日本を思う気持ちが伝わり胸が熱くなりました。この先人達がいないければ、今の我々は存在しないのかと思うとまた胸が熱くなり、戦争の悲惨さや虚しさ、戦没者のつらさや無念さをあらためて感じた上陸地研修でした。

3. 研修を振り返って

船上という特殊な場所のため、ある意味逃げ場所も

なく、また、今回の洋上研修は過去にない外洋への航海となったため、大しけの中を進むたった一隻の我がが研修船「ふじ丸」は、研修の他に忍耐と精神力を鍛えてくれました。

今回の研修は、自分自身を磨くだけでなく、太平洋戦争の慰霊の旅でもありました。今まではただ漠然と「戦争はいけないものだ。」と思っていましたが、実際に「硫黄島」や「サイパン」、「沖縄」でおこった戦争の実録ビデオを船内で見て、胸に熱いものが込み上げてきました。その後、実際にその激戦地をこの目で見ての「硫黄島での洋上慰霊祭」、この足で実際にその激戦地に立った「上陸地研修での慰霊巡り」、大変貴重な経験をしました。心の底から「戦争は絶対してはいけない」と感じます。

今回の研修を終えて、研修テーマは勿論のことですが、様々な業種の方との交流を通して新しい発想に触れ、新たな気づきを得ることができ、さらに求めていた人に出会い、目標となる人に出会えた、というとても収穫があった研修となりました。これからはこの研修で得たものを実らせ、次に繋げるためにこの種を蒔き、それを育てていきます。

最後になりますが、繁忙期であるこの時期に研修に参加させていただき、大変貴重な体験をすることができました。このような機会を与えていただきました大学をはじめeDCグループに感謝するとともに、推薦いただいた方々、職場で業務をフォローいただいた教務課の方々に感謝しながら報告を終わります。

サイパンー美しいオブジャンビーチにある旧日本軍のトーチカ



バンザイクリフ



聖母マリア像



学生サポートセンター事務室の一年を振り返って

学生サポートセンター事務室長 中島 章三

昨年4月1日に、学生の厚生補導を担当しておりました「学生課」と「就職課」の両課を統合して、新しく「学生サポートセンター事務室」として発足以来、早くも1年が過ぎました。この間、日本経済は不況の真っ只中であって、学生の就職活動には非常に厳しいものがありました。

学生サポートセンター事務室としては、学生の就職活動を少しでも円滑に行えるよう様々な支援対策を計画・実施して参りました。また、就職委員会の先生には企業訪問をしていただき、そしてゼミ担当の先生には就職活動の指導をお願いする等、教職

員が一丸となって指導してきたこともあって、結果として3月31日現在の就職内定率は下記の通り、昨年度以上(特に女子学生100%)の内定率を得ることができました。

ただ、喜んでばかり居られないことは、単位修得不足で留年者数が18名に及んだことです。折角就職内定を得られても留年となれば、もう一度やり直しになってしまいますので、3年次終了までに100単位以上は修得して欲しいものです。そうすれば、就職活動を積極的に行うことができるのではないのでしょうか。

就職内定率(3月31日現在)

経営情報学部

	経営学科		情報学科		全体計	
	総数	女子	総数	女子	総数	女子
就職希望者数	65名	8名	84名	14名	149名	22名
内定者数	58名	8名	81名	14名	139名	22名
未内定者数	7名	0	3名	0	10名	0
内定率	89.20%	100.0%	96.40%	100.0%	93.30%	100.0%

(注1) 「女子」欄は女子学生で内数

(注2) 在籍者数219名(卒業生数201名・留年者数18名)

今年度末には、情報メディア学部の第1期卒業生を世に送ることになりますので、昨年にも増して教職員が連携して就職活動の支援を進めたいと思いますので、学生の奮闘努力を期待しております。

尚、就職活動は、3年次後期から本格的に始まりますが、新入生及び2年生については、早い時期(大学に入学したとき)から

将来の目標を定め、その為に必要な知識を身につけるにはどのような科目を履修する必要があるかを考えて勉強しなければなりません。自分が迷ったときや解らないことがあるときは、担任・ゼミ担当教員や学生相談室及びオフィスアワー等を利用して、先生のアドバイスを受けることをお勧めします。

北海道情報大学同窓会

臨時総会 及び 10周年記念式典開催



平成16年3月13日(土)、京王プラザホテル札幌において、北海道情報大学同窓会臨時総会及び10周年記念式典が開催されました。

臨時総会は、同窓会木村篤詩会長の挨拶(写真=左上)のあと、議長選出が行われ、続いて議事が検討されました。議事は、「大学への時計塔の寄贈について」と「10周年記念式典の開催について」の2点で、いずれも満場一致で承認されました。特に時計塔の寄贈については、キャンパス内のランドマークとなることが期待され、在学生等からも歓迎の意が表されていました。また、東京支部設立についての報告があり、着実に大きくなる同窓会に期待が寄せられていました。



臨時総会終了後、10周年記念式典が開催されました。最初に同窓会木村篤詩会長の挨拶が行われ、続いて本学久野光朗学長の祝辞が述べられました(写真=左中)。記念式典のメイン行事は、株式会社エフエム北海道東京支社長中田美知子様による講演で(写真=左下)、「Be Ambitious ~情熱の大地を~」と題して行われました。長く北海道で活動し、最近東京に活動拠点を移した中田様からの時にユーモラスな講演に、1時間という時間も忘れて皆、聞き入っていました。

最後に懇親会が行われ、久しぶりに集まった恩師や学友と話もはずみ、盛況のうちに会は終了しました。



寄贈予定の時計塔モデル

◆◆ 教職員の動向 ◆◆

◇法人本部◇

退任 (3月31日付)
 総務課長 中島 安敬 (法人事務局長兼総務課長)
 兼務 (4月1日付)
 大学事務局次長 中島 安敬 (法人事務局長)
 総務課長 横田 敏雄 (財務課長)
 昇任 (4月1日付)
 広報室長 大橋 正典 (広報副室長)

◇大 学◇

<教 員>

定年退職 (3月31日付)
 教授 尾崎 弘之 (システム情報学科)
 定年延長 (3月31日付)
 教授 吉田 勉弘 (情報メディア学科)
 教授 若林 久二 (情報メディア学科)

4月1日付

研究科長 前田 隆
 図書館長 浪田克之介
 通信教育部長 石井詩都夫
 昇任 (4月1日付)
 助教授 菅原有道出人 (経営ネットワーク学科)
 助教授 向原 強 (経営ネットワーク学科)
 助教授 石井 勝 (システム情報学科)
 助教授 田中 英夫 (情報メディア学科)

採用 (4月1日付)

特任教授 尾崎 弘之 (システム情報学科)
 教授 福島 吉春 (経営ネットワーク学科)
 講師 関根 洋 (経営ネットワーク学科)

<職 員>

昇任 (4月1日付)
 情報センター事務室長 市川 泉 (情報センター事務室長補佐)

◆◆ 広報活動 ◆◆

<北海道情報大学通信教育部説明会；本学独自>

1月25日 (日) 福岡

3月20日 (土) 東京

<春期合同入学説明会；私立大学通信教育協会主催>

2月 7日 (土) 盛岡、東京

8日 (日) 仙台、名古屋

14日 (土) 大阪、岡山

15日 (日) 広島

21日 (土) 札幌、東京

22日 (日) 札幌

28日 (土) 名古屋、福岡

29日 (日) 大阪、福岡

3月 6日 (土) 東京

<進学相談会>

1月：北海道3会場 (網走、紋別、中標津)

2月：北海道9会場 (江差、函館、名寄、稚内、枝幸、浦河、池田、大樹、八雲)

3月：北海道5会場 (室蘭、根室、帯広、北見、旭川) 計17会場

<高校内進学ガイダンス>

1月：北海道1校 (北星学園大学附属高校)

2月：北海道3校 (旭川大学高校、由仁商業高校、千歳北陽高校)

3月：岩手県1校 (水沢工業高校)

北海道3校 (札幌白石高校、札幌新陽高校、苫小牧工業高校) 計8校

<高校出前授業>

1月28日 (水) 遠軽高校

2月19日 (木) 鶴川高校

<高校訪問>

1月：北海道36校

2月：北海道66校

3月：北海道38校

計140校

<春のオープンキャンパス>

3月27日 (土)

◆◆ 主な来学者 ◆◆

1月22日 (木) 滝川工業高校 教員1名

◆◆ 1月～4月主要行事 ◆◆

◇法人本部◇

2月26日 (木) 理事会
 3月 2日 (火)～3月5日 (金) 監査法人トーマツ期末監査
 30日 (火) 理事会

◇大 学◇

1月21日 (水) 研究科委員会
 26日 (月)～2月5日 (木) 大学院入試 (2次募集) 出願期間

2月 9日 (日) 教務学生委員会
 12日 (木) 大学院入学者選抜委員会
 研究科委員会

14日 (土) 大学院入試 (2次募集)
 大学院入学者選抜委員会
 研究科委員会

19日 (木)～20日 (金) 学位論文公開発表会

23日 (月) 教務学生委員会

26日 (木) 教務学生委員会

27日 (金) 教務学生委員会
 研究科委員会

3月 1日 (月)～8日 (月) 大学院入試 (3次募集) 出願期間

4日 (木) 教務学生委員会

11日 (木) 大学院入学者選抜委員会

14日 (日) 大学院入試 (3次募集)

大学院入学者選抜委員会

24日 (水) 研究科委員会

学生表彰

4月 2日 (金) 教務学生委員会

5日 (月) 研究科委員会

6日 (火) 入学式・新入生ガイダンス

16日 (木) 4年生向け履修説明会

◇大 学◇

1月22日 (木) 情報メディア学部教授会

29日 (木) 全学教授会

31日 (土) 一般1期入学試験 (経営情報学部教授会)

2月 2日 (日) 一般1期入学試験 (情報メディア学部)

4日 (水) 高大連携教育協定校 (岩見沢緑陵高校) 本学で実習を行う

13日 (金) 経営情報学部教授会

20日 (金) 情報メディア学部教授会

27日 (金) 全学教授会

3月 1日 (月) 経営情報学部教授会

9日 (火) 一般2期入学試験 (経営情報学部・情報メディア学部)

10日 (水) 経営情報学部教授会

12日 (金) 平成15年度学位記授与式

17日 (水) 情報メディア学部教授会

18日 (木) 企業説明会 (京玉プラザホテル札幌)

26日 (金) 全学教授会

4月 2日 (金) 経営情報学部教授会

2日 (金) 情報メディア学部教授会

6日 (火) 平成16年度入学式

7日 (水) 新入生学内ガイダンス

8日 (木) 新入生宿泊研修

9日 (金) 新入生宿泊研修

12日 (月) 前期開講

13日 (火) 留学生を囲んでの昼食会

◇通信教育部◇

<冬期スクーリング>

○教育総合演習

1月23日 (金)～1月25日 (日) 札幌、東京、大阪

30日 (金)～2月 1日 (日) 札幌、東京、福岡

2月 6日 (金)～2月 8日 (日) 仙台、名古屋、福岡

○健康とスポーツ

2月12日 (木)～2月14日 (土) ニセコ

<試験>

2月 1日 (日) 追試験

3月14日 (日) 再試験

<入学選考>

1月23日 (金) 第4回入学者選考

2月20日 (金) 第5回入学者選考

3月12日 (金) 第6回入学者選考

4月 2日 (金) 第7回入学者選考

9日 (金) 第8回入学者選考

編集後記

北海道情報大学は本年4月、創立16年目となり、情報メディア学部は完成年度を迎えることになりました。学内報『ななかまど』も第30号を発行するに当たり、編集委員会をあらたに組織し、紙面の抜本的な改変と配布先の拡大を企画したところです。これまでの狭義の学内報から学生諸君の保護者や同窓生、さらに広く学外の読者までを想定した広報誌を兼ね備えたものとなることを念じています。みなさんの忌憚のない読後感をお待ちします。(N)